

Viva Kango

Campus News of the Japanese Red Cross Hokkaido College of Nursing



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

日本赤十字北海道看護大学

平成二十四年度

入学式



平成二十四年度日本赤十字北海道看護大学入学式が四月五日に挙行されました。新入生は修士課程七名看護学部百十名であり、入学生紹介に続いて河口てる子学長の式辞がありました。河口学長からは、「人が人をケアすることは、技術のうえに心をのせて、他の人に伝えることである。」そのためには、四年間しっかり学業に励んでいただきたいこと、もし、進路について悩み苦しむ時は、短期でも、一時でも、「生懸命」やるのが、のちのちの生涯に役に立つと述べられました。



大塚義治日本赤十字学園理事長

(浦田喜久子常務理事代読)からは、東日本大震災から一年あまりたちました。日本赤十字社は、総力をあげて、被災者の救援に取り組んでいること、本学園も日本赤十字社と連携して、教職員も対応していること、そして、赤十字の理念を建学の精神とする本学で学ぶ意義を感じて欲しいと訓辞がありました。

また来賓の小谷毎彦北見市長および伊藤義郎日本赤十字社北海道支部長(長谷川貴二事務局次長代読)

新入生 歓迎のご挨拶



学 長
河口てる子

学長の河口です。

新入生の皆さん、日本赤十字北海道看護大学の印象はいかがですか。同級生や先輩、先生方とは楽しく、時に厳しく指導されていますか。オホーツクの青空の下、のびのびと学業に、スポーツに、ボランティアにと励んでおられますか。さて、看護は、人への関心、人に心を寄せることからスタートします。人に心を寄せるということ、具体的に行動として示すにあたっては、

からは、清らかな気持ちを忘れずに常に研鑽に励み、地域社会のみならず国内外で活動できる国民の期待に応える看護師になっていただきたいとの祝辞を頂きました。

在校生代表の山之内綾菜自治会長は、新入生が有意義な生活が送れるように一丸となって応援していることを語り、新入生代表安達啓太さんが誓いの言葉を力強く述べ、感動のなか閉式となりました。

では、心だけでなく技術も必要となります。それを「コミュニケーション技術」と言ってしまうのは身も蓋もありませんが、まずは「あなたに関心があります」「あなたとなかよくしたい」「あなたに危害を加える気はありません」の気持ちを、ことごと態度で示さないと他の人には伝わりません。「ところがあれば伝わるはず」というものではないのです。ですから、人付き合いが苦手な学生も、あいさつするのは気恥かしい学生も、あるいは面倒だとか、無駄なことだと思っただけでも、すらつとあいさつすることが出るように、あいさつすることごととこやかな態度を続けましょう。そうすれば一年生の間で、先輩や先生方との間で、また日本赤十字北海道看護大学の中で、「こんにちは」のことごとが行き交い、皆さんが社会に出るころには、それが大きな武器となるはずですよ。

本学は、赤十字の長い看護の歴史の中で、高いhumanityの理念と確かな実践から培われた「実践知」を持つ大学です。皆さんが人々に心を寄せることからスタートし、赤十字のhumanityと実践知を習得し、人々の幸に寄与するために人に心を寄せる行動習慣を身につけて、日々地道に励んでいってほしいと願っています。

平成二十三年度

学位授与式

・学部生…百十一名
・大学院生…十一名

平成二十四年三月十四日、本学講堂において看護学部および大学院看護学研究科の学位授与式が挙行されました。

出席者全員で御歌「四方の国」を斉唱し、続いて、河口てる子学長から学位記が、学部卒業生百十一名（代表 岩井静香さん）、修士課程修了生十一名（看護学専攻代表 小林順子さん、助産学専攻代表 野原樹里さん）に手渡されました。



河口学長からは、「赤十字の誇りと自覚を持つこと」、「これからの人生において、心を開いて多くの仲間を作ること」、「看護職者として、ともに研鑽をつみましよう」と、三つのキーワードを用い、巣立ちゆく若者たちへの手向けとして贈られました。引き続き、大塚義治日本赤十字学園理事長からは、赤十字の理念を持ち、自信を持って歩んでほしい、また赤十字社としても、できる限りの支援を約束する、とのお言葉を頂きました。

また、小谷每彦北見市長（代読 塚本敏一副市長）、伊藤義郎日本赤十字社北海道支部長（代読 中島昇事務局長）から祝辞を賜りました。

在學生を代表して佐藤久美子さんが、「実習や勉強へのアドバイスをいただき、心強かったです。これから看護職者として歩んでゆく先輩方を応援いたします。」という送辞を読み上げ、卒業生を代表して岩井静香さんが「絆という人との支え合い、繋がりを大切に、本学で学んだこと、赤十字の理念を活かし、看護職者として前に進んでいきます。」という、答辞を読み上げました。卒業表彰、記念品、花束の贈呈と続き、最後に校歌を全員で斉唱して、式を終りました。本年度卒業生は十期生という、節目の学年であり、例年にも増して感慨深い式典となりました。

研究テーマは、「NANDA-I 看護診断二〇〇九-二〇一一『非効果的気道浄化』の診断指標の妥当性検討」、「インシデント・アクシデントを経験した看護師の医療安全に関する学習に影響する要因」、「妻の大腸がんの外来化学療法に伴う夫の日常生活の支障と対処」、「北網圏の在宅緩和ケアの現状と課題〜在宅医・看護師の観点から〜」、「NICUに入院した児を持つ母親の愛着に関する研究」など、院生の臨床経験に基づいた看護の課題に取り組んだ内容でした。また、助産実践形成コースの院生は、「低体重（やせ）妊婦の生活行動と妊婦リスク認知の検討」、「妊婦の歯周病関連症状と身体活動レベルおよび睡眠の質との関連」など、これから直接ケアする対象となる妊婦の理解を深めるテーマでした。発表した院生は、参加者からの



平成二十三年度 大学院修士論文公開發表

平成二十三年度大学院修士課程修士論文公開發表会が平成二十四年三月五日（月）に行われました。

今年度は、看護学専攻五題（がん看護 CNS コースの課題研究二題を含む）と助産学専攻六題（助産実践開発コースの特別課題研究一題を含む）十一題が発表され、教職員、大学院在校生が参加しました。

専門的な質問にも丁寧に対応しており、論文を作成する過程での努力が伺えました。最後に研究科長である河口学長から、「この研究成果は、学会で発表するだけではなく、是非とも論文としていただきたい。」との言葉がありました。



卒後教育シリーズ

「新人看護師の技術のスキルアップ」

本学の看護開発センター事業、卒後教育シリーズ「新人看護師の技術のスキルアップ（点滴静脈内注射・IVH管理）」が、平成二十四年四月二十日（金曜日）午前九時から午後五時三十分、北見赤十字病院の新卒者二十六名、置戸赤十字病院三名、小清水赤十字病院三名の計三十二名を対象に基礎・成人看護実習室にて開催されました。研修は看護開発センター長である長谷部教授、基礎看護学領域の吉田助教、種本助手、成人看護学領域の島内助手、北見赤十字病院の教育担当者三名が指導にあたりました。



午前中は長谷部教授による「点滴静脈注射管理にまつわる留意事項」



午後からは「注射モデルでの演習、および実技」として、①点滴静脈内注射の穿刺・テープ固定、②点滴静脈内注射の生食ロック、③点滴静脈内注射のルート交換、④点滴静脈内注射の抜針・止血について、四〜五名のグループ毎に注射モデルを使用し、指導者一名

として、静脈注射に関する基礎知識や穿刺時・後の留意点、コアリングについてなどの話がされ、引き続き北見赤十字病院教育担当者による「点滴静脈内注射および生食ロックにまつわる手技・手順・管理」について、具体的な技術に関する内容が講義されました。午後からは「注射モデルでの演習、および実技」として、①点滴静脈内注射の穿刺・テープ固定、②点滴静脈内注射の生食ロック、③点滴静脈内注射のルート交換、④点滴静脈内注射の抜針・止血について、四〜五名のグループ毎に注射モデルを使用し、指導者一名



のもと演習を実施しました。引き続き「点滴静脈内注射の実技」として、研修参加者同士でペアを組み実際に留置針の穿刺とテープ固定の演習が行われました。午前中の講義では全員が講師の話に真剣に耳を傾け、午後からは一様に緊張した面持ちで技術演習に取り組む姿が見られました。参加者からは「緊張する。でもとても役に立つ」との声が聞かれました。一日を通し、つい数か月前までの学生の時とは全く違った表情を見ることができ、彼らが日々の現場での体験から多くを学び、考えていることが伝わり、感慨深く、さらには頼もしくも感じた一日でした。

新卒諸君、頑張れ!!

陸前高田市での小学生への学習支援活動
楽習会（夏・冬・春）
日本赤十字北海道看護大学
災害beatS研究会

平成二十三年八月、平成二十四年一月そして三月の三回、岩手県の陸前高田市にて学習支援活動「楽習会」を実施しました。私たちの活動はNGOの日本国際民間協力会（NICCO）様との協働で行っています。

津波で甚大な被害を受けた陸前高田の子どもたちは、遊ぶ場所も限られ、震災前の状態とはほど遠い中で頑張っています。私たちは子供たちの夏休み、冬休み、春休みの宿題を楽しく進める楽習会を企画しました。勉強だけでなく、様々なレクリエーションも盛り込み、雪を運んで行った真夏の雪合戦、寒い冬にもかかわらず汗をたっぷりとかいた鬼ごっこや心も温まるチョコフォンデュ大会、オホーツクの海から運んだ流水そしてクリオネなどに子どもたちは大喜びでした。陸前高田市の広田地区、小友地区のみの活動ですが、回を重ねるごとに子どもたちが増えて、春の楽習会では約二〇〇人の子どもたちが参加してくれました。被災から一年を経過した中で、同じ活動団体が再訪することを子どもたちだけでなく、保護者の皆様にもとても喜んでいただき、私たちが訪問する意義を強く感じています。被災地の復興の願いを込めな



新任教員紹介



基礎看護学領域
教授 山川 京子

「やっぱり看護は面白い！」と実感しつつ、臨床で三十八年間看護師経験を積んできました。これからは、学生と教員がともに「やっぱり看護は面白い」と実感しあう教員経験を積んでいきたいと思っております。赴任以来、職員の皆様笑顔とさわやかな挨拶に心なみとてもありがたい気持ちで過ごしております。また、道端の草木にも話し掛ける自然派なので、やがてこの身も牛が草をはむ丘の一部になるような予感がします。

まだまだ、教員もどきではありませんが、看護技術と看護管理は車の両輪をモットーに、「チームKISO」の一員として、また本学の職員として成長するよう頑張ります。よろしくお願いたします。



基礎看護学領域
助手 種本 純一

今年度の四月より基礎看護学領域の助手として赴任致しました、種本純一と申します。

本学の平成23年度国家試験合格状況

	受験者数	合格者数	合格率(%)	合格率(全国%)
看護師	111	109	98.2	90.1
保健師	111	98	88.3	86.0
助産師(学部)	2	2	100.0	95.0
助産師(大学院)	5	2	40.0	

本学を三期生として卒業後、七年間臨床で勤務してまいりました。

院内での実習指導を担当していくなかで看護教育の必要性、重要性を改めて実感するとともに、これから看護職を目指す方々への力になりたいと強く思うようになり本職を希望しました。

大学という環境において教育に携わるのは初めての経験でもあるため、未熟な面が多々あるとは思いますが、学生の皆さんと日々看護について学び、これからの医療を担っていく人材として社会へ羽ばたけるよう、全力でサポートしたいと考えております。どうぞよろしくお願いたします。

平成24年度入試概況

試験区分 募集人員等	推薦入学試験		一般入学 試験	大学入試セ ンター試験 利用入試	社会人 入学試験
	公募推薦	指定校推薦			
募集人員	35名	10名	45名	10名	若干名
志願者数	85名	10名	185名	88名	10名
受験者数	85名	10名	177名	88名	9名
合格者数	44名	10名	75名	43名	2名
実質倍率	1.9倍	1.0倍	2.4倍	2.0倍	4.5倍
入学者数	44名	10名	46名	8名	2名

卒業表彰について

卒業表彰の受賞者が決定し、表彰式が行われましたのでお知らせいたします。

卒業表彰は、一年次から四年次までの四年間の成績上位者三名程度に贈られます。

受賞者は、平成二十三年学位授与式において表彰され、記念品と奨学資金が贈呈されました。

平成二十三年卒業表彰

- 中川千絵子さん
 - 岩井 静香さん
 - 米野 隆晶さん
- (以上三名)

平成23年度卒業生の進路について

	道内	道外	合計
日赤関係	68	5	73
国立医療機関	3	1	4
大学附属病院	2	3	5
公的・各種団体医療機関	14		14
医療法人	4		4
個人			
行政機関	1		1
助産所			
進学	5	1	6
その他			
合計	97	10	107

■日赤関係内訳
〔北海道内〕
北見赤十字病院二十三名、釧路赤十字病院十八名、旭川赤十字病院十九名、置戸赤十字病院三名、小清水赤十字病院一名、函館赤十字病院一名、伊達赤十字病院二名、浦河赤十字病院一名
〔北海道外〕
武蔵野赤十字病院三名、福島赤十字病院一名、横濱市立みなと赤十字病院一名

■進学
日本赤十字北海道看護大学大学院看護学研究科二名、天使大学大学院助産学研究科二名、東京女子医科大学大学院看護学研究科一名、札幌医科大学助産学専攻科一名

教職員人事

【退職】

平成二十四年三月三十一日付
教授 佐久間まこと
助手 上埜 千春
助手 大谷 華枝

【採用】

平成二十四年四月一日付
教授 山川 京子
助手 種本 純一

【昇任】

平成二十四年四月一日付
助教 前田 陽子 (助手)
助教 伊東健太郎 (助手)
助教 中山絵里子 (助手)

編集後記

三月に第十期生が巣立ち、開学からの卒業生が千名を超えました。全国の医療・保健・福祉など様々な場面で活躍されていることと思えます。皆様のご多幸をお祈りしております。



日本赤十字北海道看護大学内誌

Viva Kango

第34号

発行日/2012年6月20日
編集・発行/広報委員会

〒090-0011 北海道北見市曙町664-1
TEL(0157)66-3311 FAX(0157)61-3125
mail to: kouhou@rchokkaido-cn.ac.jp
http://www.rchokkaido-cn.ac.jp